

カトリック 仙台教区報

No.244 2021年8月1日

発行：カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel.(022)222-7371 Fax.(022)222-7378
発行責任：仙台教区広報委員会
URL <http://sendai.catholic.jp/>

コロナ禍の聖週間と祭壇奉仕者選任式



3月31日水曜日、元寺小路教会では司祭団だけによる聖香油ミサが行われました。新型コロナウイルスにともなう宮城県緊急事態宣言が発出され、宮城県内の教会は昨年引き続き聖週間を含む公開ミサが中止となったためです。

本来、聖香油ミサは「病者のため」「洗礼志願者のため」「堅信等のため」に使用する油を祝別する事と、教区司祭が一堂に会し司教に叙階の日の「司祭の約束」を更新する大切なミサですが、今年も非公開となり平賀徹夫名誉司教と一部の

司祭で執り行われました。その中で高木健太郎神学生の祭壇奉仕者選任式も行われました。祭壇奉仕者は助祭になる前の一つのステップです。高木神学生は今までも仙台教区のいくつかの小教区と一緒にミサをささげて来られましたので、ご存知の方も多いと思います。高木神学生のためにお祈りください。

現在、東京カトリック神学院に戻り司祭になるための勉強と祈りの日々を続けている高木神学生に、これからの抱負などをお聞きしました。

高木神学生から

いつもお祈りとご支援くださりましてありがとうございます。私は2021年3月31日、平賀名誉司教司式により、祭壇奉仕者の選任を受けました。祭壇奉仕者は、①ミサにおいて司祭



と助祭を助けること。典礼書等を運ぶことができる。②臨時の聖体奉仕者として聖体を授けることができる。との務めが説明されています。「でも選任を受けたからといって、今までの侍者奉仕、聖体奉仕者と何ら変わりはないのでは？」という疑問を持つ方がいらっしゃるかもしれません。しかし意識の中では大きな違いがあります。

司祭養成課程において、朗読奉仕者、祭壇奉仕者、そして助祭、司祭と進んでいく中で、これは見方を変えると朗読台から祭壇脇へ、祭壇脇から…、つまり「次第に祭壇の中心に近づいていく」という受け止め方をすることができます。

皆さんのお祈りに支えられて、今この道を歩むことができます。感謝を忘れずに、そしてなによりも福音の喜びを伝えられる司祭になれるように、頑張りたいと思います。

教区の諸活動

仙台教区青年会の新指導司祭タデオ・ラファエル神父の紹介

ラファ神父（彼は愛情をこめてこう呼ばれています）は、35歳のメキシコ人神父で、グアダルペ宣教会のメンバーです。彼は司祭叙階後、2年間、仙台教区の第1地区で奉仕してきました。2021年4月から第5地区に移り石巻教会に在住しています。そして、仙台教区の青年担当司祭に任命されました。福岡と東京の神学院で養成を受けたので、日本語に精通。また、英語にも精通しています。



元寺小路教会の青年会のミサを司式するラファエル神父

彼は、新たに任命された青年担当司祭として、熱意と楽観主義に満ちており、より包括的な司牧プランを展開することを望んでいます。それは、少なくとも今後5年間は仙台教区全体の青年の司牧の方向性となるようなものです。その時々ニーズに応えるために毎年の活動を行うだけでなく、慎重に優先順位を決めたり、対処すべきニーズを特定するために、ビジョン、ミッション、目標、青少年のためのプログラム



仙台教区青年会のビジョンを検討する青年会チーム

について、より幅広い議論を行う機会を提供するという戦略的計画を実施したいと考えています。彼はこの事を、若者のリーダーたちや、ケベック・ミッション・ソサエティのジュリー・フェクトーさん、仙台教区外国人支援担当者のクラリタ・サンチェスらで構成される青年会チームと一緒にやりたいと考えています。

ラファ神父は、この計画を念頭に置き、パンデミックの影響で教会でのミサがまだ制限されていることを配慮して、2021年5月29日から6月19日までの毎週土曜日午後2時に、仙台青年会のInstagram・アカウント(Instagram・アカウントIDは sendaiyouthgroup)を使ったオンライン・ミサを行い、青年活動を開始しました。仙台教区青年会は、Instagram、Facebook、LINE、Youtubeなどのソーシャルメディアアカウントを持っています。

仙台市内のすべての教会でミサが再開されると、定例の第4土曜日の青年ミサも6月26日に元寺小路教会で午後2時から行われ、青年会のソーシャルメディアアカウントでネットで配信されました。しかし、残念なことに参加者は少なく、青年会は若者に手を差し伸べるために、より広く積極的なプロモーションやキャンペーンを行うことになりました。



オンラインミサ
石巻教会からタブレット端末を通してミサの様子が配信された

教会に行かなくても、
どこからでもミサに参加できる

ラファ神父のビジョンはまだ構想段階にあり、パンデミックが続いている間は、青年会は6月26日のミーティングで以下の活動を決定しました。

- 青年たちは、毎月第1日曜日の午後6時に元寺小路教会で行われる国際ミサに参加。ミサの後、青年たちは教育・情報交換のために集まります。
- 毎月第2土曜日の午後1時から5時まで、ラファ神父が元寺小路教会の青年会で活動しています。若者は彼と一緒にコーヒーを飲んだり、相談したり、おしゃべりしたりすることができます。
- 毎月第3土曜日の午後5時から、元寺小路教会で青年のためのミサが行われます。



元寺小路教会での青年会のミサ後、活動する青年たち

- 毎月第4土曜日の12:00～17:00は、ラファ神父のいる石巻教会で過ごすフリーデーです。この日は、若者たちが何か活動を考える日としています。
- なお、パンデミックの状況にもよりますが、8月20日～22日にサマーキャンプを行う予定です。
- 上記の活動は、新型コロナウイルスの拡散を防ぐためのすべての取り決めに従って行われます。

また、これらの活動を実現するために、新しい役員として、先崎まこ(代表)、カルロス・バプティスタ(副代表)が選ばれました。これらの事は、6か月後に評価され、どのように計画を改善していくかが決定されます。

ラファ神父は、「神の御心、聖霊の導き、そして神の国に向かって働くすべての人の協力によって、すべてが実現すると信じています」と、大きな期待を寄せています。

クラリタ・サンチェス
(仙台教区外国人支援担当者)

各地区からのお便り

第3地区より

〈カリタス大船渡ベース〉 「絵手紙の輪」を始めました

カリタス大船渡ベースで見守り訪問している方々は、長引くコロナ禍でお茶っこの行き来が減り、外出を控えるようになって人と会うことが減り寂しく思われる方、沈んだ気持ちになりがちの方が増えました。

一方、ボランティアの受け入れを1年以上中止しており、「大船渡へ行きたい」というボランティアさんの声が多くあります。



そこで、「絵手紙の輪～あなたの絵手紙でみんなを元気づけませんか?～」という企画で絵手紙の交流の参加者を呼びかけています。絵手紙と言っても、「絵と一言」を書くシンプルなもの

です。「描いて楽しい」「もらってうれしい」お互いに晴れやかな気持ちになる、離れていてもできる交流になるよう願っています。

5月16日付のカトリック新聞で紹介していただき、日本各地から絵手紙が届いています。応募者から「自分も独居高齢者だから交流できるとうれしい」「絵手紙を出す相手が出来てうれしい」など、新たな楽しみとさせていただきますことに驚き、うれしく思っております。

教会でしばらくお顔を見ていない方をお訪ねするキッカケに、この絵手紙を届けるのはいかがでしょうか。新たな交流が色々な形で生まれる希望があります。

①絵手紙を描く人②絵手紙を受け取る人③絵手紙を受け取る人を紹介する人を募集しています。お問い合わせ・お申し込みは、カリタス大船渡ベース(0192-47-4737)へお電話ください。

カリタス大船渡ベース スタッフ 大河内 愛

第4地区より

〈米川教会〉土曜ごミサ(6月12日)

米川は太陽がさんさんとして、森林浴が快適な土地柄です。私は、毎年6月初めの日曜日に米川でミサにあずかるのを楽しみしていましたが、コロナの影響で中止となりとても残念でなりません。でも、米川教会の心ある方のおかげで、ごミサを高橋神父とロペス神父のお2人によって行っていただき、その後、みんなで小高い山の三経塚へ行き、供養のお祈りをささげました。



この米川地域には、昔から悲惨な歴史が残されています。砂鉄製鉄に従事していた隠れキリシタン120人を仙台藩領のキリシタン大弾圧(寛永16年)により、切り捨て場で処刑されたことが判明いたしました。

手と足に五寸釘を打たれ、磔や打ち首等が行われ、海無沢、西側の朴ノ沢、老ノ沢の3か所に40人ずつお経と共に埋められたといわれています。

現代に生きる私たちには、胸を打たれる思いです。全国のみなさん方、米川教会へ一度は来てみてください。近くには、大籠教会資料館もあります。

末廣 順士(千厩教会)

第5地区より

〈東仙台教会〉ミサ再開後の洗礼式

第5地区では6月にミサが再開し、6月13日(日)に東仙台教会で一人の方の洗礼式が行われました。山本康夫さんは昨年からSr.長谷川の入門講座にて聖書の勉強をすすめてこられ、今年の復活祭に受洗される予定でしたがミサが中止になり延期されておりました。



洗礼名は“ミカエル”です。共同体の一員として喜んでお迎えし、大きな拍手とともに皆に祝福されました。

山本さんに感想をお聞きしました。

「去年からミサの中止により洗礼を待たされましたが、これから典礼の一年を経験するのを楽しみにしています。教会の皆さんとのつながりを大切にしたいと思います。よろしくお願ひします。」

司式された李神父の言葉です。

「洗礼は終わりではありません。新しいスタートです。新たな気持ちで歩んでいただきたいと思います。」

和野 由美(東仙台教会)

第6地区より

〈元寺小路教会〉 待ちに待った洗礼式

昨年に引き続き、コロナ禍でミサが各教会で行えない状況があり、本来は、復活徹夜祭の時に、洗礼式という予定が、5月30日の三位一体の祭日に、午後2時から元寺小路教会で小野寺洋一神父の司式で洗礼式が執り行われました。



「私たちの洗礼式は、いつなんでしょうかと、たびたびお尋ねしたり、みんなで「去年のように、8月まで待つことになるのかしら」と心配しながら待ちに待った洗礼式の日取りが発表され、この日を迎えました。

当日は、8人の受洗希望者が緊張の面持ちで、代父母と共に参列していましたが、まだコロナウイルスの感染予防期間中ということで、関係者のみの出席でした。しかし、出席者が少なく寂しいというよりも、よく知っている者同士の温かい雰囲気があったよ、式が始まると、次第に緊張もとけ、とても良い式になりました。

8人の中には、ご夫妻で洗礼の決意をなさった方、お子様を育てあげた方、お母さまがぜひにと参列なさった方、独身の方などいらっしゃいましたが、どの方も主の恵みをいっぱいを受け、顔を輝かせておられました。

コロナ禍のため、約1年間の勉強会は短縮されましたが、毎週の入門講座でお互いに親しくなり、これからの信仰生活を歩むよい友人同士になっています。

当日はどうしても出席できない2人の洗礼希望者には、1週間前の5月23日聖霊降臨の主日に、小松史朗神父によって洗礼式が行われました。

Sr. 長谷川 昌子（聖パウロ女子修道会）

子どもの初聖体式



2か月半ぶりに公開ミサが再開された6月6日のキリストの聖体の祭日、元寺小路教会9時のミサ(今年度より30分早まりました)で、昨年10月よりシスター長谷川の勉強会を受けてきた、4人の子どもたちが初聖体の秘跡にあずかりました。途中何度も新型コロナウイルス感染によるミサの中断がありながらも、勉強会に通い続けました。この後に早速、侍者としてデビューした子どももいます。これからの教会を担う、インターナショナルな子どもたちを、よろしく願います。

「イエス様のことをいろいろ知れて、楽しく勉強ができ良かったです。これからも教会に通いますので、よろしく願います。」

(高橋ヴィンセント)

「初聖体でもらったパンの味は、幸せとうれしさでいっぱいでした。日曜学校ではいろいろなことを知れました。たとえばイエスさまのために命をかけて祈った人がいることです。初聖体を受けた時にたくさんプレゼントをもらって、うれしかったです。」

(ガムタン・ヨハン)

荒賀 久仁夫（元寺小路教会）

〈豊屋丁教会〉初聖体



初聖体を迎えた山浦君に、お母様からインタビューしてもらいました。

「家族みんなが食べているのを、ずっと見ていたので、今回受けられて良かったです。ぼくが思っていたより、あじはしませんでした。コロナで何度もだめになりそうになったけどがんばりました。」

(山浦 旬)

〈八木山教会〉コロナ禍での洗礼式

コロナ禍での公開ミサが再開した6月6日(日)、キリストの聖体の祭日に待ちに待った洗礼式が行われました。司式は入門式と洗礼志願式を担当された小野寺洋一神父です。

小林常子さん(霊名マリア)は、復活祭に予定されていた洗礼式が延期となってから、この日を待ち続けていました。八木山教会にとっても、2か月以上待ったミサ再開の日がキリストの聖体の祭日で洗礼式と重なりました。当日の「聖書と典礼」には八木山教会ゆかりの高山徹神父(高松教区)の『いのちのパンに養われて』が載っています。



小林常子さんは白百合学園の学生時代にシスターから教えられた祈りやキリストの絵を今も覚えていて、受洗の役にたったと話しています。八木山教会にも同校の卒業生はたくさんいます。受洗の証人やサポーターには事欠きません。代母は同校の先輩、早坂芳子さんです。

小林常子さんは受洗後も聖書読書会に参加して勉強を続ける努力家です。ようこそ八木山教会に！
野田 和雄(八木山教会)

第7 地区より

〈野田町教会・松木町教会〉合同黙想会 ボランティア活動の原点

3月14日(日)に、野田町教会と松木町教会の合同による「四旬節黙想会」が野田町教会で、コロナ対策を十分に行なったうえで実施されました。

講師は、カリタス南三陸ベース長の千葉道生さんです。ワールドユースデーやフランスのテ



ゼ共同体での体験を通して世界中の人々からボランティア活動の原点を学び、東日本大震災発生時から10年間の南三陸での活動のお話を伺いました。パワーポイ



講師：千葉道生さん

ントや、動画による説明の中に、人々や地域にどう、寄り添っていけるか、キリストに倣って生きるとは、どのような事かを考える、良い機会になりました。
駒田 瑞穂(松木町教会)

信徒のつぶやき

イエス様に促されて

私は高校時代に、男子にいじめられたと思っている。私は赤ちゃんの時に、頭をやけどしていたけど、どうしても大学に入りたかったし、親も娘を大学に入れて、少しは気持ちを楽にしたかったと思う。

大学に入学した時、二つの教室を一つにした大きな部屋で、外国人の神父様が、「希望者は集まれ」とおっしゃったので、私は行ってみた。そこでは、外国人の神父様方が、演劇の話をしたり、カトリックの話をししたりして、楽しそうだった。しかし、2日目の宗教の話では、みんな帰り、教室はガラ空きになった。真面目に聞く人は一人もいなかった。でも、神父様方は、がっかりした様子でもなかった。私立医大でも教えておられ、そこでも話をなさっていたらしい。女子は、私一人で、誰も邪魔する人もなく、毎週聞きに行った。2年目の夏には、上智大学の夏期講座に1週間行くことになり、無料で聴講することができた。

その後、私は内外ともに充実し、その年のクリスマスには洗礼を受けることができた。ありがたかった。それからは、誰もいじめる人もなく、世の中を楽しく暮らすことができた。

息子たちをまっすぐに育てたく思い、思案している。家庭における宗教生活は難しい。どんな風に育つか、それは心配である。私も、この辺で少し背筋をゆるめたいと思ひ、気持ちをゆるめたら、生活もぐたぐたとなるものである。今、再び生活を締め直すところである。

神父様方は故郷にお帰りになり、あるいはお亡くなりになった方もある。今、千厩教会は、みんなお亡くなりになり、月1回となった御ミサも、月末となった。しかし、この間、月末1回さえも忘れる始末である。次こそ忘れずにと思ふ。

世界平和を考えるのは、この世でイエス様が一番深いと思う。だから、神様の世界平和を考え、しっかり着いていきたいと思う。戦争のない世の中にして、みなさんと手をにぎり、しっかり着いていきたいと思う。

私は、親不孝をしたと思っている。何かのせいにするのは簡単だが、まず家族から世界平和に導きたい。戦争のない世界平和、クリスチャンが手をつなぎ、みんなと仲良く暮らしていきたい。

千葉 多喜子(千厩教会)

司 祭 紹 介

ジェラルドゥス・レクダク神父 (淳心会 C.I.C.M.)



- ニックネーム
ジェリー
- 生年月日
1971年4月17日
- 出身国
インドネシア
- 助祭叙階
2002年3月20日
広島カテドラル
- 司祭叙階
2002年8月13日 王たるキリスト教会
(インドネシア、ジャカルタ・ペジョンポンガン)

司祭になろうと思った動機は何ですか？

私は、カトリックの家庭に生まれ育ちました。子どもの頃は、ベルギーから来た淳心会の宣教師がいる小教区で少年侍者として奉仕していました。故国を離れ、日本のような外国で奉仕活動をする彼らの宣教的な生き方にひかれました。この魅力によって、私は神学校に入学し、淳心会に入会し、淳心会のメンバーの1人となりました。

司祭・宣教師として、これから何をしていきたいですか？

現在の状況、特にパンデミックによる混沌とした状況の中でこそ、司牧・宣教活動を行いながら、神の愛の証人になりたいです。

地元の信徒たちや仙台教区に対して、どのような希望やビジョン、目標をお持ちですか？

教区の信徒たちの生活にはさまざまな困難がありますが、そのような苦労の中でも定期的に集まり共に祈る聖体祭儀において、神の愛と誠実さに心から気づき、体験してほしいと思います。それによって、彼らは教会共同体を、日々の生活の中で自分たちを導いてくれる神のいのちを経験する交わりの場として確実に見いだすことができるのです。

他に何か言いたいこと、提案したいこと、コメントはありますか？

キリストに従う者として私たちに託された使命は、キリスト・イエスが「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」

(マルコ 16:15)と宣言されたように、福音書の中のキリストの使命と常に一体であると信じています。これこそは、私たちすべての信徒が、自分の生き方でこの呼びかけに応えるための招きそのものです。そして、神様はいつも私たちと共にあることを忘れないでください。

フランシスコ・ザビエル 高橋 昌 神父



- 生年月日
1936年10月16日
- 出身地
岩手県一関市
- 司祭叙階
1965年3月20日
一関教会

司祭を志した動機

戦後まもなく一関教会に通いました。ヴェット神父様(以後ヴ師)は、子どもが大好きで400人ほど通っていました。伝道士は3人おりました。神の存在、人生の目的、祈りを学びました。ヴ師は、己に厳しく、他人には優しい神父様でした。

作家の井上ひさし氏が、一時期ラサールホームにいたのですが、その時にヴ師と交流がありました。井上氏の著書『ボローニャ紀行』の「聖ドメニコ、わが恩人」の項に、詳しく書いてありますので、抜粋要約してご紹介します。

「…話は昭和24年ごろへ飛びます。…息子がぐれると思ひ詰めた母親が一関教会へ行って、相談すると、主任司祭のヴ師が仙台の寄宿舎(ラサール・ホーム)に預けたらどうかという提案。…ラサールホームに入って、一年後、わたしはヴ師から洗礼を受けました。(上智)大学と掛け合って入学金と授業料免除の特典と仙台教区の奨学資金を持って来てくださったのも神父でした。…ある時、神父に訊ねたことがあります。信者のために走り回っていらっしゃいますが、神父さんご自身の望みはおありにならないのですか。すると、『それはあります。しかしその望みは叶えることができませんでした。戦争が始まってカナダ人は敵性外国人ということになって、群馬県の工場で働かされました』という答え。さらに『人質交換船でカナダへお帰りにな

る方法もあったはずですが』と尋ねると、『より困難な道を行き、より辛い方を選び、そしてよく祈り、よく働け…、これがドミニコ会員の生き方ですから…。しかしあの戦争でポーロニヤへ行く機会を失ってしまいました。そこはね、聖ドミニコ会発祥の地なんです』と答え、何かに憧れるような、はるか遠くを見る目つきになりました。神父の望みは叶わず、昭和49年、福島県の白河市の教会に在任中、天に召されてしまいました。66歳でした』

こんなヴ師は、私の司祭としての生き方の身近な模範であります。

仙台教区内の信徒に望むこと

どうぞ水沢教会に巡礼においでください！

- (1) 水沢には、キリシタン領主、後藤寿庵がおります。教会を建て、堰を掘り、神父、信者の世話をし、迫害時には信仰を捨てず、追放され、南部藩(盛岡地方)へ去り、そこでも宣教し、信仰を全うしました。信者の鑑です。
- (2) 3人の福者がございます。①福者カルワリオ神父、水沢の鉱山で捕らえられ、10人の信徒と共に

に仙台の広瀬川で冬の2月、水牢で殉教しました。②福者ペトロ沢口九兵衛修道士(奥州市前沢出身)、アウグスチノ会の神父様から洗礼を受け、通訳をしながら、長崎の大村で1630年に殉教しました。29歳。③福者ペトロ岐部神父、400年前にローマで司祭になり、迫害の日本に戻り、長崎から北上し、ここ水沢を中心に東北で宣教し、捕らえられ、江戸で逆さ吊りにされ、殉教しました。出身の大分県に記念公園があり、船越保武氏製作のご像が建立されています。

- (3) 水沢に関係ある殉教者は、上記を含め、150人程おります。殉教者をたたえましょう。

大切にしていること

私は司祭叙階の記念カードに、ヨハネ第1の手紙の4章20～21節を書きました。「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできません。神を愛する人は兄弟をも愛すべきです」と。利己的な世の中ですが、他者を思いやる心が育まれますようにと祈りつづけたと思います。

訃報

Sr.マリア・ベルナル 春山 智子 (善き牧者の愛徳聖母修道会 R.G.S.)



その後、修練長、管区長の任を果たし、また、カトリック塩山教会(山梨県)の管理と隣接する幼

Sr.春山は、本会の使徒職である児童養護施設に長く携わり、特に仙台市にある小百合園の施設長の折に、宮城県沖地震(1978)に遭遇し、崩壊した施設を建て直すために東奔西走し、新園舎とマリアホールを建てました。そ

稚園の園長を3年間引き受け、その任の後に仙台修道院に戻り、児童養護施設の子どもたちへのカケテージスと卒園児へのアフターケア、受刑者との文通等幅広く活動し、昨年9月修道誓願宣立60周年を祝いました。

そして6月6日「キリストの聖体の祭日」に、普段通りに夕食を済ませたその直後に心臓の痛みを訴え、そのまま姉妹たちに囲まれ帰天しました。

シスターは、人々の幸せを願い、特に弱い立場に置かれた人々のために、祈りと行動を通して修道者としての使命を果たしました。

〈略歴〉

1931年2月22日 誕生
1960年9月29日 初誓願
2021年6月6日 帰天 90歳

編集後記

コロナ禍の状況がおさまるのは、まだまだ先のようにですが、なんとか今回も教区報の発行までこぎつけました。1日も早くこの事態が落ち着いて私たちの日常が戻ることをお祈りいたします。

仙台教区広報委員会では、原稿の投稿を募集しております。投稿は随時受け付けていますので、下記のメール宛てに添付ファイルでお送りください。また、メールをお使いでない場合は教区事務所宛てに、手紙でお送りいただいても結構です。

(上野 隆)

sendaikyoukuho@gmail.com

次号発行予定日：12月5日(日) 原稿締め切り：9月末日